

第4回 武雄市新文化施設エリア整備基本計画策定委員会

日時 令和4年12月20日(火) 13:30~
 場所 武雄市文化会館大集会室B
 委員 小坂智子氏、三島伸雄氏、黒澤伸氏、朝長勇氏、田中友子氏、溝上剛氏、
 井上祐次氏、大島久美枝氏、鳥谷唯氏、山口祐香氏、諸岡智恵氏
 欠席者 諸石信幸氏
 武雄市 文化課 松尾教育長
 事務局 こども教育部 文化課 新文化会館整備準備室
 生涯学習課
 シアターワークショップ 古川、金、伊藤

発言者	主な意見内容
① 意見聴取	
② 新文化施設エリアのコンセプト・整備方針案・事業計画の検討Ⅱ	
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.20 エリアコンセプトに「にぎわいづくり」という言葉があるとよい。 ・ アートパーク、コミッションワークという中で武雄に見合うものを。 ・ 温泉や図書館など観光地と両輪で人が集まる仕組み作りが必要。 ・ 次世代という言葉の説明しすぎるのものどうか。読み手のイメージーションが膨らむ。 ・ 設計者がエリアコンセプトからアイデアを発案できるかどうか。前回よりイメージできる内容になっている。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.21、22 について、人のつながりが分かる図になるとよい。活動している人と外から来る人の接点が生まれる場が必要。 ・ 次世代という言葉について、武雄のまちの次なるステップ、アップデートという意味合いと捉えていた。子どもや高齢者の世代という認識ではない。解釈が様々。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代が何を指すのか。子どもたちなのか、文化芸術を創造していく人たちなのか。今の世代を置き去りにしてはいけない。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代とは、これまで文化会館が作り上げてきたものとその次のステップというイメージ。時代の区切りという意味ではないか。 ・ アートパーク化が敷地全体に広がるかは次フェーズでの検討事項。エリアの歴史的背景を踏まえた上でどうコミッションできるか。唐突感なく、ただ次世代につながる場になると良い。 ・ 子育て支援について明記するかどうか要検討。 ・ ゾーニング図とは別で人の接点分かる図を作成してもらえるとよい。
委員⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現文化会館の良いところは避難所機能と文化発信機能を同時発信できること。広い敷地だからこそ。庭園を有効活用できる場としてほしい。
委員⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.22 のアートパークは良い提案。蔵に関しては、武雄の文化や歴史を活用できるとよい。P.25 に目玉となる現代アートとあるが、唐突にならない

	<p>いように。市民に馴染みがあり、武雄の文化を活かした場としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感受性に訴えかけられる豊かな公園になることが期待できる。自然と歴史的建造物と文化施設があり、単なる公園とは違う場になる。
委員⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢 21 世紀美術館のように武雄文化会館も黒門エリアからワクワク感があるとよい。池から蔵の裏側にある竹林エリアは整備するのか。
委員⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄市には子どもが遊べる公園が無い。アートパークができるのは有難いが雨天時に遊べる空間も視野に入れていただきたい。
委員⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアの価値が分かるページが必要。p.27 に課題は書かれているが、どこに価値があり継承すべきなのか記載されるとよい。 ・p.21 に子育て支援の記載があるとつながりが良くなる。交流つながり機能部分に言葉が補われると良い。 ・まちとしての次世代、人の世代、2つの意味がある。注意書きで記載してもよい。“次世代”と強調しても良いのでは。
委員⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・p.19 の役割について。図書館もあるなかで欲張りすぎるのも良くない。役割分担すればよい。図書館との通路を整備したところで本当に人の動線はつながるのか。目的をもって来る人が中心ではないのか。
委員⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代は「今後 50 年を見据える」という考え方から来ている。次世代という言葉は強調してはどうか。 ・アートパークについて、歴史と新しさが融合できるとよい。チームラボが身近な事例。 ・目的が無くても外部の人が来られる仕組みがあるとよい。
③ 大ホール長寿命化方針の検討	
委員⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・大ホール機能は、現在の機能維持なのか、音楽ホールに限定するのか。 ・座席数は大きく変わるのか。座席スペースは現状で問題ないのか。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・機能維持が前提だが、予算を鑑みての検討となるのか。
委員⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・現施設は動線案内が不親切。トイレの列も問題。大ホールのトイレが不足する場合、新文化棟と連携できるとよい。
④ 新文化棟の整備方針検討	
委員⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・新文化棟と武雄公民館の役割分担と管理について。公民館は社会教育のために必要。両施設にも会議室がある。文言に違いはあるものの実際の使われ方に相違はない。どのように整理していけば良いのか。 ・有効活用できるか疑問。硬直的な使い方しかできないのでは。融合をコンセプトとする中で何かできるのか。 ・公民館は無料で利用したい人が中心。文化会館の貸館業務ではどのような利用者像を想定しているのか。みな無料で利用したいのではないか。 ・子どもたちのイメージーションを膨らませるような活動をどのスペースで展開するのか。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館とは根本的に法律の違いはある。それを合築する意味など意見を伺いたい。 ・社会教育法改正の時期が迫っていると考え。公民館や博物館の位置づけは今後変わってくる。 ・アルカス SASEBO には男女共同参画推進センターが入っているが運営上

	<p>問題があるとのこと。文化会館との一体運営は難しいのが実態。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用面の問題は起こると考える。一体的な運営を図れるような活動を目指すのかどうか。運営面で柔軟に対応できる形を考えていただきたい。 ・基本設計の段階でバックヤードを増やす代わりに会議室を減らすということもあり得る。それで問題ないのか。
委員⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄町公民館は公民館条例に基づいて運営、利用してもらうことが前提。武雄町民のための生涯学習の提供が原則。 ・公民館利用者が文化会館施設を利用することは可能だが、その逆は条件付きとなる。 ・塚崎の大楠に創作室増設の案がある。新文化棟の屋上から繋げられないか。庭園とマッチする場とし、アートを設置するイメージ。
委員⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・運用について、次フェーズの管理運営計画で詳細な検討をしていく予定。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・延床面積にどれだけこだわっているのか。今後の設計のなかで面積が増えることも起こり得る。 ・自主事業を行っていく場合、様々な印刷物や道具が残り続けることになる。そういう面でのゆとりがどれだけあるのか。物の搬入や創作スペースなど裏方エリアは十分なのか。
委員⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・バックヤードの充実は見落としとしてはいけない視点。
⑤ 管理運営計画の検討	
委員⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・一般論は分かるが、武雄のケースでの問題提示をしてもよいのでは。公民館と文化棟の運営体制まで落とし込まれていない。 ・武雄市民が発想豊かにできる事業をするのであれば、そのような組織体制が求められる。外部の人材が本当に武雄市民を思って運営してくれるかどうか。それを記載しないと次の管理運営計画に繋がらないのでは。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄公民館がどうしたいのか簡単な落とし込みは必要だが、次のフェーズの検討事項ではある。 ・どのようにして文化融合エリアの事業を実行できる運営組織とするか。指定管理者公募の要件として示せるとよい。 ・運営組織のあり方について次回提示いただきたい。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の調理室が使えない場合、文化会館のオープンキッチンを使うということだが、無料で使えるのか。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計、実施設計の間により良い運営体制を探ることになるが、パターン提示だけでもできるとよい。 ・組織体自体が経年で進化していくことが重要。どのように成長する余地のある組織体制とするか。余力があり、まちの組織ともつながれる運営主体になっていく必要がある。 ・交流人口、関係人口を作り出していく必要がある。文化というのは広域地で作られるもの。交流は作りやすい。 ・3つの T (Talent : 才能/Technology : テクノロジー/Tolerance : 寛容性) にあるように、文化は寛容性をつくりだすのに重要。
委員⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・運営者が 50 年後を見据えられるように。観光客が増えてほしいのか、移住者が増えてほしいのか。武雄市の最終目標が明確に伝わってくると活動内容、使い方が見えてくる。

⑥ 整備スケジュールの検討	
委員長⑨	・ゴールを示さないとスケジュールの妥当性が分からない。